

# 大分県立竹工芸訓練センター

## 令和5年度竹工芸科入校生募集!

訓練目標	花籠、盛籠等の伝統的工芸品を中心に生活用工芸品の製作等に必要な竹材、籐材の加工及び編組技術、染色塗装法に関する実技と関連知識を習得します。さらに、企業経営力、マーケティング、商品開発力、プレゼンテーション能力、アート作品の製作能力を学ぶことにより、起業し自活できる竹工芸職人の能力を身につけます。
主な就職先	県内の竹製品製造企業、竹製品販売卸、自営業

### 募集要項

募集対象	令和5年4月1日時点の年齢が18歳～39歳以下で、次の(1)～(3)のいずれかに該当する方 (1) 離転職者、一般求職者 (2) 令和5年3月大学・短期大学・専門学校卒業見込み者 (3) 令和5年3月高等学校卒業見込み者
募集定員	12名
募集期間	令和4年11月28日(月)～令和5年1月31日(火) 17時必着
応募書類	①入校願書(大分県職業能力開発校専用様式) 募集対象(1)(2)の方は、管轄の公共職業安定所で入手してください。 募集対象(3)の方は、高等学校の進路担当の先生にご相談ください。 ②調査書 募集対象(3)の方のみ提出(全国高等学校統一用紙/高等学校発行) 【入校願書等提出先】 大分県立竹工芸訓練センター 〒874-0836 大分県別府市東荘園3丁目3組
入校選考	令和5年2月12日(日) 受付:8時30分～ / 選考試験:9時00分～
選考場所	大分県立竹工芸訓練センター
選考方法	適性検査、数学、面接の結果及び入校願書等を、総合的に判定し可否を決定します。
合格発表	令和5年2月15日(水) 13:00～
訓練期間	令和5年4月12日(水)～令和7年3月14日(金) (2年間)
訓練時間	8時30分～16時00分(土日、祝日及び夏・冬・春休み等休校日を除く)
訓練場所	大分県立竹工芸訓練センター
特典	①授業料は無料 ②受講手当、通所手当等を支給(公共職業安定所の受講指示を受けた方のみ) ③通校には学割適用 ④技能者育成資金融資制度 ⑤災害見舞金支給制度 ⑥就職のあっせん
必要経費	授業料は無料ですが、教科書及び実習服等の実費(5万円程度/入校時)が必要です。
その他	①訓練生用の駐車場、駐輪場はあります。(車通学可) ②寮は有りません。

※ 募集定員及び訓練内容は、今後の情勢により変更することがあります。



### 大分県立竹工芸訓練センター

〒874-0836 大分県別府市東荘園3丁目3組  
TEL 0977-23-3609 FAX 0977-26-5969

【HP】 <https://www.pref.oita.jp/site/280/>



# 大分県立竹工芸訓練センター

修了生からのメッセージ



【(有)岩尾竹籃】  
後藤 哲律さん 平成28年度修了生

平成30年6月寄稿

ここは竹工芸を学ぶ事ができる、全国で唯一の職業能力開発校です。訓練1年目は道具の扱い方、材料取りや編み方の基礎的な技術や知識を学び、2年目はテーマ毎に発案から制作までを各自の自由な発想で取り組みます。また、マーケティングや経理等、自営に必要な基礎知識も学びます。2年間の訓練で学んだ技術や知識は、竹工芸を続けていく上で大きな経験になりました。(有)岩尾竹籃に就職して2年目を迎え、まだまだ職人として未熟ですが、この経験を活かし、日々の業務に取り組みんでいます。



【cotake】  
佐藤 美樹子さん 平成27年度修了生

平成29年6月寄稿

ここは全国で唯一、竹工芸の技術を習得できる職業能力開発校です。訓練1年目は、材料(ヒゴ)取りから基本的な編み方までの基礎を、2年目は各自がオリジナルな発想で商品開発に取り組み、修了までに6作品を制作するとともに、マーケティングや会計経理等も学びます。私は、修了後1年間、センターの隣にある貸し工房(未来竹房B-スクエア)に入居して自分の商品を製作・ストックし、この春に別府市内で竹工芸の工房兼店舗をオープンしました。2年間の訓練で職人としてのスキルはもちろんのこと、起業・自営に必要な知識までも学んだことが今大変役立っています。



【ヒガシ竹工所】  
東 浩章さん 平成27年度修了生

平成28年6月寄稿

竹工芸を学ぶことのできる唯一の職業能力開発校ということで、竹工芸科には全国から訓練生が集まってきます。カリキュラムは、刃物の研ぎ方や材料取りから始まり、実践を通して竹工芸の基礎を学んでいきます。2年目には、自由な発想でオリジナルの製品をつくりながら、自営する上で必要な経営の知識も学ぶことができます。私は現在、自営で竹工芸の仕事をしていますが、熱心な先生方や同じ志を持つ仲間と囲まれながら過ごした2年間で支えられています。あっという間に過ぎて行く2年間でしたが、とても充実した日々を過ごすことができました。



【おじろ角物】  
小松 賢大さん 平成26年度修了生

平成27年6月寄稿

現在「おじろ角物店」に就職して角物(四角い)竹製品を製作しています。在校中は竹工芸について様々なことを学びました。1年目は、課題作品の製作実習を中心とした基本技術を、2年目はオリジナル作品の製作実習に加え、経理・マーケティング等の経営知識までを学び大変自信ができました。しかし、修了後に学ぶことはさらに面白いです。竹の業界は様々な可能性があり、割る竹1本1本には、その人間の個性や経験が反映されていきます。竹工芸の懐の深さは計り知れません。私は現在、確実に前進しています。そして、日々の歩みが楽しみで仕方ないのです。

## 1年次課題作品

六つ目盛籠	鉄鉢盛籠	網代小物入れ	菊底バスケット
亀甲盛皿	掛け花籠	炭斗籠	買い物籠